

事案名	久慈港（日立市）の事案（茨城県 8 - 3）
分類	発見・被災・掃海等処理
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『サンケイ新聞』昭和60年7月2日〔1〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔2〕
資料内容概要	<p>昭和60年6月頃に漁船が鉄筒を引き揚げ、茨城県日立市の久慈港に放置したものが7月に発見され、自衛隊により処理された。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和60年7月1日に、茨城県日立市久慈港に強い刺激臭を出している鉄筒が放置されているのを漁夫が発見した。警察が調べたところ、1ヶ月ほど前に漁船が網に引っ掛け、その後、堤防に放置していたことがわかった。なお、付近で遊んだ子供たちが目や皮膚の痛みを訴えていた。また、鉄筒の中味は、イペリットと見られるとしており、この港には2年前にもイペリット弾が発見されたことがあると記載されている〔1〕。 ・茨城県警本部長の要請を受けて、昭和60年7月1日～12日に、茨城県久慈港で発見された毒ガス容器（直径40×100cm、くしゃみ剤）1本をコンクリートで固形化した後、日立市に引き渡したと記載されている〔2〕。